

課題番号: DIAS23-A003

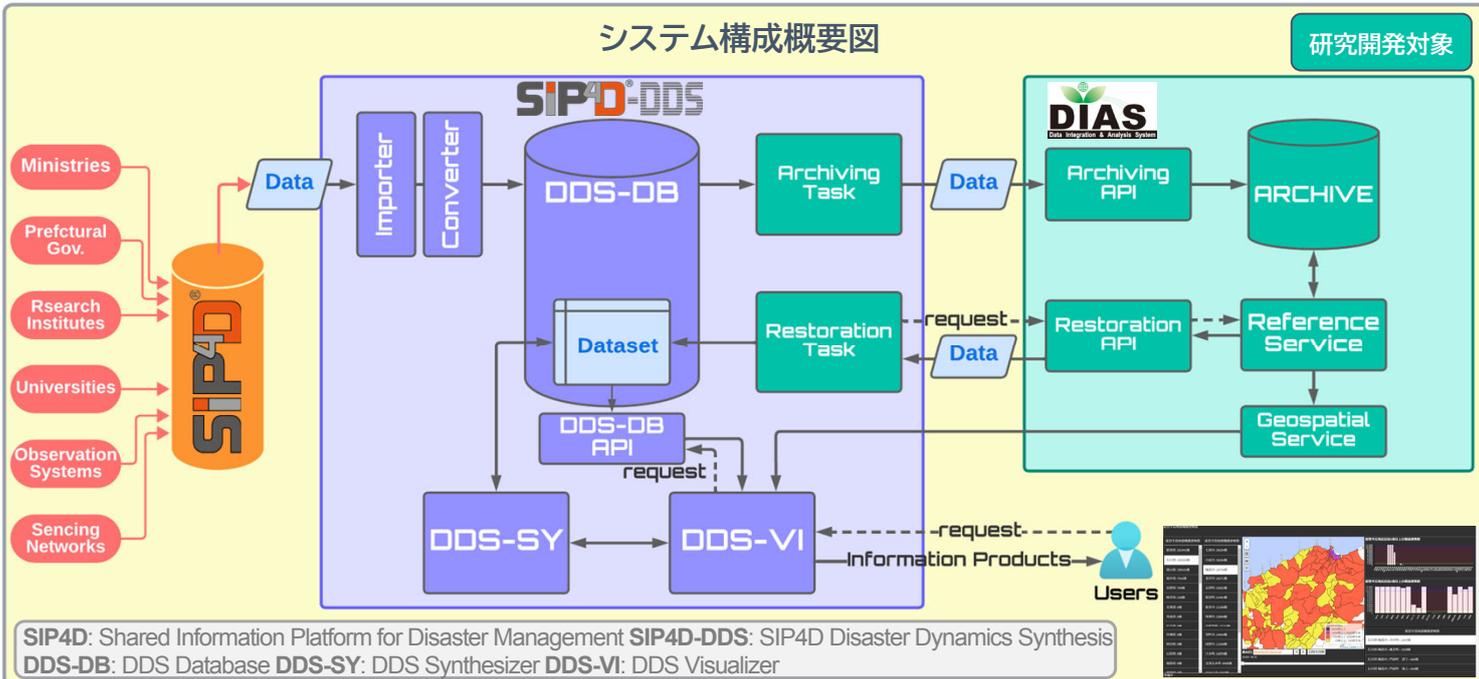
災害動態データ自動アーカイブシステムの構築

実施機関: 国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域 総合防災情報センター
センター長 臼田 裕一郎 ・ 副センター長 花島 誠人

研究開発の概要

- 防災科研は、災害対応機関が保有する災害情報を組織を超えて相互に共有するための仕組みとして、基盤的防災情報流通ネットワーク(SIP4D)を開発し運用している。
- SIP4Dは、災害対応機関(国・都道府県・指定公共機関など)から、これら多種多量の災害情報を収集し、集約・統合して、組織を超えた情報共有を実現する基盤的機能を果たしている。
- SIP4Dが集約した災害情報は、各組織の情報システムへただちに共有すると同時に、災害動態解析システム(SIP4D-DDS)へ転送し、災害情報の時系列的な解析を実施するとともに、災害動態時空間データベース(DDS-DB)へ蓄積している。
- 近年、頻発する大規模災害への備えてとして、過去の災害情報や災害対応の時系列的な履歴などをオンデマンドで参照・活用することへの要望が高まってきている。
- 本課題では、将来の大規模災害を想定したレジリエンス強化に資することを目的として、DIAS上に災害情報のアーカイブシステムを構築し、SIP4Dで保有している過去の災害情報を移転することにより、任意の時点の災害情報を読み出して即座に復元できるリファレンスサービスをDIAS上に構築するための研究開発を実施する。

システム構成概要図



研究開発の成果目標

- 本課題では、DIASの大規模計算機環境を活用して、時々刻々発生する災害情報を逐次アーカイブし、オンデマンドで参照できるリファレンスサービスを構築する。
- このサービスにより以下のようなユースケースに資することを目標とする。
 - ▶ 過去の災害状況を復元し、国や自治体の災害対応を定量的に検証
 - ▶ 類似した過去の災害情報の分析から災害の規模や範囲を先読みして対応を検討
 - ▶ 災害対応過程の履歴から過去の復旧・復興にかかる時間を想定
 - ▶ 避難情報発令のタイミング検討を支援・・・など